

第5回 武蔵野市生涯学習計画策定委員会 議事録

日時 令和元年8月8日(木) 17時30分～19時30分
会場 武蔵野プレイス4階 フォーラム
出席者 板垣文彦委員、宇佐見義尚委員◎、北村淳子委員、助友裕子委員、白田紀子委員、
花田吉隆委員、牧野篤委員○、松村勝人委員、斉藤愛嗣委員、福島文昭委員
◎委員長、○副委員長

資料 資料1 第3・4回委員会での主なご意見と対応予定
資料2 武蔵野市生涯学習計画 骨子案

次第

1 計画の骨子案について(第1章～第4章)

事務局より、資料1を用いて計画骨子について説明を行った。

第4章について

委員長 新たに加わった第4章から意見交換を始めたい。公共施設等総合管理計画のもとで作成された部分だが、自由に意見をいただきたい。

委員 ふるさと歴史館は東京都の所有物件のスペースを借りて設置していると説明があったが、武蔵野市が独自に施設を設置することはできないのか。これまで歴史資料館の設置について議論されてきたが、コストの関係から設置してこなかった。ただ、武蔵野プレイスの開館とともに西部図書館が閉館し、その跡地にふるさと歴史館を設置することができた。しかし、図書館として利用していたときには発生しなかった賃料を支払っている。さらに、建物は東京都が所有しているため、一部を改修することも難しい状況にある。

委員長 現時点では難しいことは分かるが、10年後も現状を維持するということがよいか。

副委員長 現状を聞くかぎりでは難しいだろう。武蔵野市として独自に設置することを方針として立てる必要があるが、生涯学習施設整備計画の枠組みの中では現実的ではないのではないかと。

委員長 10年後よりも先のことを踏まえて、可能性を計画に書き込むことはできないか。もちろん不要という結論もあると思うが、いかがか。

委員 将来的な理念として考えることはできるかもしれないが、現時点では、先ほど説明したとおり難しいという認識を持っている。

委員 ランニングコストはどれぐらいなのか。

委員 賃料だけで年間1,000万円程度である。

事務局 ふるさと歴史館の運営費は、賃料を含めて年間2,700万円である。借りて

いるため建物の維持管理にかかる費用が割愛されているので、この金額で留まっているところである。

委員 賃料が1,000万円という話を聞くと、10年間で1億円を支出することになる。かなりの金額である。新たに建設することを検討してもよいのではないか。

委員 新たに設置すれば、それ以上の金額になる。武蔵野プレイスのランニングコストは5億円程度である。新設した方が安いということは考えにくい。そもそも公共施設等総合管理計画の中で新たに建設するという趣旨を盛り込めるのかは疑問である。

委員 第4章の内容は資料編という位置づけにしてはどうか。各章は生涯学習の目指すところが書かれているが、第4章は趣旨が異なるからだ。

事務局 武蔵野市の計画では、今回のように独立した章として位置づけることが多かったもので、それになっている。

委員 生涯学習施設は市の東側にも設置するべきだと思う。三層構造のうち、生涯学習施設は3駅圏に1つずつ設置する種類のものとして位置づけなおした上で、生涯学習を振興していくために新たな施設を設置するということを明記していただきたい。

委員長 地域的な偏りについて、どのように是正していくべきかという意見でもあると思う。

委員 コミュニティセンターは市内に19館あり、生涯学習活動にも利用されている。それを踏まえると、武蔵野市はそれほど面積も広くないので、生涯学習施設は現状のままでも十分ではないかと思う。また、生涯学習計画は行政計画であり、市民の要望書ではないので、現実的な議論をした方がよいのではないかとも思う。

委員 生涯学習を振興しようとするのであれば、施設としての方向性を打ち出さなければいけないのではないか。

委員 生涯学習施設を新たに設置するべきだという答申をいただいても、正直、行政計画として、その内容を位置づけられるかというところと心許ないところがある。

副委員長 制約があることは理解できる。新設することは難しいとしても、既存の施設を生涯学習の場として活用し、生涯学習活動の土台をつくっていくという考え方もあるのではないか。一般行政の生涯学習化という趣旨も骨子には示されているので、そちらの方が現実的ではないか。

委員長 ところで、先ほど行政計画は要望書ではないという意見があったが、計画は市民ニーズに基づいて策定されるものなので、要望書ではないという考え方はいかがかと思う。

第1章・第2章について

委員

新しい計画の目標年次は2030年だが、SDGsの目標年次と同じである。生涯学習計画においてもSDGsと関連するところはあるか。武蔵野市全体の方針とも関係するが、生涯学習においてSDGsの目標のどれと関連するのかを考えてみてもよいと思う。

計画骨子の冒頭で、個人が豊かになると社会が豊かになると記載されているが、実際に相関するのかを検証する必要はないか。聞くところによると、海外に比べて日本では相関が薄いとも言われている。個人が生きがいを感じるということと、まちに対する所属意識がつながっているのかが気になる。まちのことは他人事になっている可能性はないか。高い理想を掲げることはよいと思うが、それとともに市民の動機づけを行っていかねばいけないが、そのためにも市民の意識について検証していく必要があると思う。

副委員長

市外在住者からすると武蔵野市では、個人の市民意識がまちに反映されていると感じている。たしかに先ほどの指摘は分かる部分もある。第2期教育振興基本計画では、個人が学び、その成果を地域に還元しようとしていたのだが、結果としては個人主義的な状況が進んだ。しかし、第3期教育振興基本計画でも、個人が学びの成果を還元するという考え方を引きずっている。還元するという具体的なアクションをするというよりも、自分としては、各自が教養を高めることで自分の生活を大切にすることが、ひいては自治体や自分の住んでいる環境を大切に思うことに通じると期待したい。自分の生活だけでなく、その生活を実現することのできる自治体や生活環境があるのであり、それに意識を向けてもらうことに取り組んでもよいのではないか。

第2章に4つの変化が記載されているが、それを括るものとして「自立」というキーワードがあるのではないか。医療においても、医師が施術や投薬で治療をするという一方向のサービス提供から、患者が自らの生活習慣を見直す等して、医師等が協力して治していくことが必要となってきている。就労環境も変化しており、将来的には組織の一員として雇用されて働くのではなく、プロジェクト単位で契約を結ぶようになるとも言われている。そういったなかでは自立しないといけなくなると思うので、4つの変化の中で触れてもらえればよいと思う。

委員

いまの意見を踏まえて「市を取り巻く社会環境の変化」を書けるのであれば、計画の前提として分厚いものになると思う。ただ、自分としては変化の中に格差や弱者という視点が抜けていると感じる。

ところで、外国人に向けた教育機会という話があったが、住民登録をしている外国人を想定しているのか。外国人にも教育機会があればよいとは思いますが、日本人の市民と交流することも重要だと思うが、市民であるかどうか

- かを意識しなければいけないのではないか。
- 委員長 受益者負担という考え方を持った方がよいということになるが、事務局としてはいかがか。
- 委員 住民登録をしていないという点では、外国人に限らず、日本人も登録していない人はいる。登録の有無は把握できないが、基本的には住民登録をしている人を計画の対象としているところである。
- 委員 国の政策もあって、今後ますます日本で働いている外国人は増えてくると思う。住民登録しているかどうかというよりも、働いていれば納税する義務はあるので、自治体としてサービスを提供するのが当然だと思う。
- 委員 第1章にて計画の進行管理が明記されたことはよい。一方、第2章の「生涯学習（平成22年度～令和元年度）の進捗」では、どのような進捗があったのかが明記されていない。アンケート調査の結果ももっと評価に活用してもらいたい。そのような論述があれば、第3章にある施策体系の説得力が増すのではないか。PDCAサイクルが大事だと思うので、アンケート調査も評価に役立ててもらいたい。
- 委員長 自分も評価は行うべきだと考えるので、事務局にはお願いしたい。
- 委員 評価をするにしても、現在の計画では生涯学習を振興した結果としての望ましい姿が分からない。市民の生活が豊かになったかどうかを、どのように評価するのかを明確にしなければいけない。
- 委員 第3期教育振興基本計画では評価の指標が明記されている。一方、武蔵野市の現在の生涯学習計画には指標は示されていない。武蔵野市では他の計画も同様なのだが、行政としての評価の考え方を変えていかないといけないのではないか。
- 事務局 現在の計画では指標はないが、新しい計画における取り扱いについては検討したい。
- 委員長 自立に関する意見もあったが、以前からボランティアが重視される傾向にあるように、自分たちでやっていくという方向性があると感じる。生涯学習における自立や自立支援について考えてもよいのではないか。
- 委員 市民の立場からいうと、行政計画には将来像が示されるべきだと思う。何を目指すのかが見えないと計画として成立しないのではないか。仮に、自らが自立して活動するようになることが新しい豊かさになるというように示してもいいかもしれない。
- 副委員長 将来像については、第3章の基本理念や基本方針について議論すべきなのではないか。また、内容が固まれば、計画の冒頭で示すようなことがあってもよいと思う。

第3章について

- 委員長 第3章に話を移したいが、いかがか。
- 委員 自分は健康がキーワードになると考えている。生涯学習のためには健康である必要があるので、視野に入れられればと思う。
- 委員 自分が健康でなければボランティアとして活動できない。武蔵野市でも高齢者向けの体操教室が取り組まれているが、生涯学習でも健康をテーマにしてよいと思う。
- 委員 市民大学修了者が教える側に回ることは大変よいアイデアだと思うが、武蔵野市には様々な人が住んでいるので、そのような市民を活用する方策を考えた方がよいと思う。また、その際には無償のボランティアではないかたちで活動してもらえらる制度を考える必要があると思う。
- 委員 先ほど、個人の豊かさと市の豊かさの議論があったが、生涯学習の目的は個人の豊かさだと思う。その個人の豊かさが先立ち、結果として市の豊かさにつながることがあると考えるべきなのではないか。現在の骨子案や今回の議論では、市の豊かさが先にあり、そのために個人の豊かさがあるように感じる。なるほどと思いつつも、その点に違和感も感じている。
- 委員 市というよりも、地域コミュニティについて考えるべきだと思う。個人が豊かになれば地域コミュニティが豊かになるという予定調和は気になるところである。そのような単純なものではないとも思う。ただ、地域コミュニティにおける個人というあり方があるとは思っている。
- 副委員長 行政との関係でいうと、行政サービスを要求するような個人なのか、自分たちが主体的に活動するから支援を求める個人なのかという観点で考えるべきである。自立した市民というのは後者である。主体的に活動する個人が増え、行政との関係性を構築していくということを目指せばよいのではないか。
- 委員 基本理念で書かれることが、市民が満足するかどうかを検証できるべきだと思う。
- 委員 Society5.0やA Iは自分たちの感覚や生活が拡張され、世界が広がるということだと思う。その結果、自立に向かっていくのだと思う。そのようなことを踏まえた企画があればよいと思う。
- 委員 武蔵野市の学校ではコミュニティスクールは行っていないが、学校と地域の協働に取り組めるのかと検討している。学校を支えていただいている方たちは長年学校に関わってこられた方である。地域に関わりがない方でも、学校で教えたり、支援したりすることで、学校を核とした地域のつながりができないかと考えている。学校からコミュニティが広がるのではないかと考える。
- 委員 どのようにすれば地域に住む人々が、地域活動にかかわるようになるのかは気になっている。

- 委員 地域の人々に行政が積極的に働きかけることもあり得ると思う。具体的な方策は分からないが、きっかけにはなるのではないかと思う。
- 委員 いまの意見の背景には、学び終わった人が教えるという前提がある。一方、学習指導要領で示されてきたアクティブラーニングでは、教える中で学びが深まるという考え方がとられる。例えばラーニングパートナーのような仕組みがあれば、学びがつながっていきやすくなるのではないか。
- 委員 生涯学習計画なので、学習とは何かということを考える必要もある。教えることで学ぶ効果があるということもある。また、発信することも重要だと思う。発信することで自らの存在価値が認められ、高まるのだが、学ぶことはそれを目的とするものだと思う。自分の存在が不確かになっている社会なので、学ぶということが重要だと思う。そのためにはアクティブラーニングはもちろん、発信が不可欠なのだと思う。
- 委員長 基本理念では「新しい時代」という言葉が示されているが、何をもって「新しい時代」と考えるのか。議論をするべきだと思うが、事務局としてはどのように考えているのか。
- 事務局 骨子案P17の「E 新しい時代における生涯学習の役割を考えなければならないこと」や、第2章において社会環境の変化として取り上げた4つの視点から構成されるものだと考えている。
- 委員長 「新しい時代」については今後議論していきたい。
- 委員 理念的な議論をすることも必要だと思うが、この計画が実行性を担保するためには資金的なことも議論すべきなのではないか。選択と集中について議論をしなければ、計画が文章で終わってしまうと思う。
- 委員長 社会教育委員会では、そのようなことも議論している。本委員会は計画の内容を議論する場だと認識している。
- 副委員長 国では、社会教育士のような制度面での検討が進められている。そのような変化を捉えて、活用できることは取り入れるような検討をした方がよいかもしれない。

2 事務局からの連絡

事務局より、次回策定委員会の日程、ならびに社会教育フォーラムの概要について説明を行った。